

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道58号 <small>うらそえきた</small> 浦添北道路	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自： <small>おきなわけんぎのわんしあざうちどまり</small> 沖縄県宜野湾市宇地泊 至： <small>おきなわけんうらそえしあざみながわ</small> 沖縄県浦添市宇港川			延長	2.0km
事業概要					
<p>沖縄西海岸道路は、国道58号、331号などの交通混雑緩和と那覇空港自動車道、那覇空港、那覇港と西海岸地域の各拠点を連結し、地域の活性化、地域振興プロジェクトに寄与する広域幹線道路で、読谷村から糸満市に至る約50kmの地域高規格道路である。また沖縄西海岸道路は、渋滞の緩和、交通事故抑制、観光支援並びに物流の効率化等を目的に策定されたハシゴ道路計画にも位置づけられている。浦添北道路は、その沖縄西海岸道路の一部を形成し、国道58号の渋滞緩和、那覇港・那覇空港へのアクセス向上に資するとともに、那覇都市圏の交通混雑の緩和を目的に計画された2環状7放射道路として、浦添市周辺の渋滞緩和、地域交流の促進に寄与する宜野湾市宇地泊から浦添市宇港川に至る延長2.0kmの道路である。</p>					
H18年度事業化		H17年度都市計画決定		H20年度用地着手	
H22年度工事着手					
全体事業費	250億円		事業進捗率	約20%	供用済延長
	0km				
計画交通量	26,000台/日				
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 3.8 (残事業) 4.9	(残事業)/(事業全体) 173/223億円 事業費：166/217億円 維持管理費：7.0/7.0億円	(残事業)/(事業全体) 846/846億円 走行時間短縮便益：752/752億円 走行経費減少便益：72/72億円 交通事故減少便益：23/23億円	平成23年	
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C= 3.3~4.2 (交通量 ±10%)			(残事業) 交通量：B/C= 4.3~5.5 (交通量 ±10%)		
事業費：B/C= 3.5~4.1 (事業費 ±10%)			事業費：B/C= 4.5~5.4 (事業費 ±10%)		
事業期間：B/C= 3.5~4.0 (事業期間 ±20%)			事業期間：B/C= 4.5~5.2 (事業期間 ±20%)		
事業の効果等					
①円滑なモビリティの確保					
<ul style="list-style-type: none"> ・並行路線である国道58号に集中する交通が分散し、並行区間の交通量が約10%減少。【76,325台/日→68,625台/日】（未整備→完成2車線） ・渋滞損失時間が約19%削減。【790万人・時間/年→約637万人・時間/年】（未整備→完成2車線） ・国道58号の平均旅行速度が約1.6倍向上。【14.7km/h→23.5km/h】（未整備→完成2車線） ・北谷町役場から那覇空港までの所要時間が約37%短縮。【59分→37分】（未整備→完成2車線） 					
②個性ある地域の形成					
<ul style="list-style-type: none"> ・浦添北道路が供用することで沖縄コンベンションセンター周辺の宜野湾海浜公園やビーチ、マリナーを含めた宜野湾コンベンションエリアの利便性の向上とエリア周辺の活性化が期待される。 ・那覇空港から沖縄コンベンションセンターまでの所要時間が約41%短縮。【34分→20分】（未整備→完成2車線） 					
③地球環境の保全					
<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量が約0.5万t-CO2/年削減（約0.2%）削減【205.4万t-CO2/年→204.9万t-CO2/年】（未整備→完成2車線） 					
④生活環境の改善・保全					
<ul style="list-style-type: none"> ・NO2排出量が約38.2t/年削減（約16.5%）削減【231.8t/年→193.7t/年】（未整備→完成2車線） ・SPM排出量が約3.7t/年削減（約16.7%）削減【22.0t/年→18.3t/年】（未整備→完成2車線） 					
関係する地方公共団体等の意見					
<p>沖縄西海岸道路は、沖縄本島の道路網の骨格となる地域高規格道路であり、車社会である本県の振興発展に極めて重要な役割を担うものである。現在、延長約50kmの全長の各区間にて鋭意事業が推進されている。</p> <p>浦添北道路は、その沖縄西海岸道路の一部を形成し、国道58号の渋滞緩和、那覇港・那覇空港へのアクセス向上に資するとともに、那覇都市圏の交通混雑の緩和や浦添市周辺の地域交流の促進に寄与する道路である。</p>					

沖縄西海岸道路の事業効果については、暫定供用している豊見城道路などの区間で渋滞緩和や豊崎タウンへの企業立地促進などの事業効果が発現されており、事業の投資効果の有効性がすでに明らかとなっている。

また、今年8月には、那覇西道路が暫定供用され国道58号等の交通渋滞の緩和や所用時間の短縮などの事業効果が発現されている。このように事業効果については、各区間の暫定的な部分供用において明らかとなっている。

沖縄西海岸道路の進捗状況を見ると延長50kmのうち、糸満道路が平成23年度に暫定2車線での全線供用予定、臨港道路浦添線が平成27年度供用予定とされている。浦添北道路が全線2車線供用すれば、平成20年代後半に沖縄西海岸道路の糸満道路から宜野湾バイパス間の暫定供用が可能となる。

沖縄西海岸道路の全線を結び早期の暫定供用するため、浦添北道路の早期整備が必要と考える。したがって、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。

事業評価監視委員会の意見

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・現道58号は、交通量が7～8万台/日以上、混雑度は1.98まで増加している。⇒交通渋滞の緩和
 ・ピーク時旅行速度は14.7km/hと、慢性的な渋滞が発生している。⇒交通渋滞の緩和
 ・牧港補給地区跡地利用基本構想（案）が平成21年度に策定。⇒地域の活性化

事業の進捗状況、残事業の内容等

・事業進捗率は約20%、用地取得率は約73%（平成23年度末見込み）。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・平成20年代後半の全線暫定2車線供用に向け事業を継続中。

施設の構造や工法の変更等

・工法の変更等によるコスト縮減に努めながら事業を推進。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は当初から変わらず、事業を継続する必要があるため。

事業概要図

位置図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。